

令和4年度第2次補正予算行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	OECD/GSF分担金			担当部局	科学技術・学術政策局		作成責任者			
事業開始年度	平成23年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官(国際戦略担当)付		参事官(国際戦略担当) 大土井 智			
会計区分	一般会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月閣議決定)					
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「OECD/GSF分担金」は、経済協力開発機構(OECD)/グローバル・サイエンス・フォーラム(GSF)において、各国が主導して行う様々なプロジェクト活動に参画・寄与することにより、各プロジェクトに関する国際的な動向を集め、我が国における政策立案に役立てることを目的とする。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	特定の科学分野における新しい国際協力機会の模索や、国内及び域内の重要な科学政策決定に活用可能な国際的な枠組の構築、地球規模の問題に対する科学的側面からの検討など、OECD/GSFの活動を推進するための経費を分担する。GSFによって推進されているプロジェクトの一例として、「グローバルな研究エコシステムにおけるインテグリティとセキュリティ(Integrity and security in the global research ecosystem)」プロジェクトが挙げられる。本プロジェクトでは、専門家グループを設置し、国際ワークショップを開催するなどして各国の事例等を収集・分析し、最終報告書を取りまとめ、日本においても本プロジェクトに根ざしたWSを主導して開催を予定するなど、世界各国の政策に落とし込むべき重要な提案となっている。									
実施方法	その他									
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	令和元年度	11	令和2年度	10	令和3年度	10	令和4年度	10
		補正予算	0		▲0.6		▲0.7		▲0.5	
		令和4年度第2次補正予算							▲0.5	
		前年度から繰越し								
		翌年度へ繰越し								
		予備費等								
		計	11	9.4	9.3	9.5				
	執行額	10	10	9						
	執行率(%)	91%	106%	97%						
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	91%	106%	97%						
令和4年度第2次補正予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度第2次補正予算	主な増減理由							
	経済協力開発機構国際機関分担金	▲0.5	OECD/GSFの分担金を算出するにあたって、我が国の分担率が当初見込より少なくなったため。							
	計	10								
活動内容(アクティビティ)	各国代表団がGSF事務局と連携して、特定の科学分野における新しい国際協力機会の模索や、国内及び域内の重要な科学政策決定に活用可能な国際的な枠組の構築、地球規模の問題に対する科学的側面からの検討等を実施するため、各国代表団及びGSF事務局等が協力してGSF会合を開催する。									
活動目標及び活動実績(アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	5年度活動見込	
	科学的側面からの検討等を実施するため、GSF会合を開催する。	OECD/GSF会合の開催回数	活動実績	回	2	2	2	2	2	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	各年度の拠出額 / 各年度の政策レポート等の数 * 便宜的に日本の分担金のみを対象として、参考数値として算出。OECD/GSFでは日本のほか、他の加盟国からの分担金や拠出金も取りまとめてプロジェクトを実施しているため、我が国からの分担金のみにおける単位当たりコストの算出は本来適当とは言えない。また、各プロジェクトは2年単位で設定されているため、政策レポート等の数が著しく少ない場合がある。			単位当たりコスト	百万円	0	3.2	9.1	5.1	
				計算式	百万円/政策レポート等の数	10.2/0	9.5/3	9.1/1	10.2/2	
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	OECD/GSFにおける、様々な活動成果を、我が国の科学技術政策の立案に活用するため、調査分析結果を得る * 各プロジェクトは2年単位で設定されているため、政策レポート等の数が著しく少ない場合がある。	OECD/GSFが活動成果について、対外的に発信している政策レポート等の数	成果実績	件	0	3	1	-	-	
			目標値	件	2	2	2	-	-	
			達成度	%	0	150	50	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	文部科学省調べ									

活動内容 (アクティビティ)		各国代表団がGSF事務局と連携して、特定の科学分野における新しい国際協力機会の模索や、国内及び域内の重要な科学政策決定に活用可能な国際的な枠組の構築、地球規模の問題に対する科学的側面からの検討等を実施するため、科学技術政策に資するプロジェクトを実施する。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	科学技術政策に資するプロジェクトを実施する。	OECD/GSFにおいて実施された科学技術政策に資する様々なプロジェクト数	活動実績	件	5	7	6	7	5	
			当初見込み	件	6	6	6	6	6	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	各年度の拠出額 / 各年度で実施されたプロジェクト数 * 便宜的に日本の分担金のみを対象として、参考数値として算出。OECD/GSFでは日本のほか、他の加盟国からの分担金や拠出金も取りまとめてプロジェクトを実施しているため、我が国からの分担金のみにおける単位当たりコストの算出は本来適当とは言えない。			単位当たりコスト	百万円	1.8	1.7	1.5	1.5	
				計算式	百万円/各年度で実施されたプロジェクト数	10.2/5	9.5/7	9.1/6	10.2/7	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	OECD/GSFにおける、様々な活動成果を、我が国の科学技術政策の立案に活用するため、調査分析結果を得る * 各プロジェクトは2年単位で設定されているため、政策レポート等の数が著しく少ない場合がある。	OECD/GSFが活動成果について、対外的に発信している政策レポート等の数	成果実績	件	0	3	1	-	-	
			目標値	件	2	2	2	-	-	
			達成度	%	0	150	50	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	文部科学省調べ									
政策評価、再生計画との関係	政策評価	政策	政策7 イノベーション創出に向けたシステム改革							
		施策	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20200930-mxt_kanseisk02-000010162_01.pdf						
			該当箇所	p.3						
事業所管部局による点検・改善										
国費投入の必要性	項目				評価	評価に関する説明				
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	本事業は、OECD/GSFの活動に参画・寄与することにより、包括的な知見の獲得等を目指すニーズの高い事業である。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	本事業は、OECD/GSFの活動に参画・寄与することにより、包括的な知見の獲得等を目指すニーズの高い事業であり、国際機関への拠出であるため国が実施すべきである。				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	本事業は、OECD/GSFの活動に参画・寄与することにより、包括的な知見の獲得等を目指すニーズの高い事業である。				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				-					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。				無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。				無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。				○	当初の目的どおり、OECD/GSFの分担金として使用された。本事業による分担金に運営経費以外の用途はない。				
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				-					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	当初の目的どおり、OECD/GSFの分担金として使用された。本事業による分担金に運営経費以外の用途はない。				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。				-						

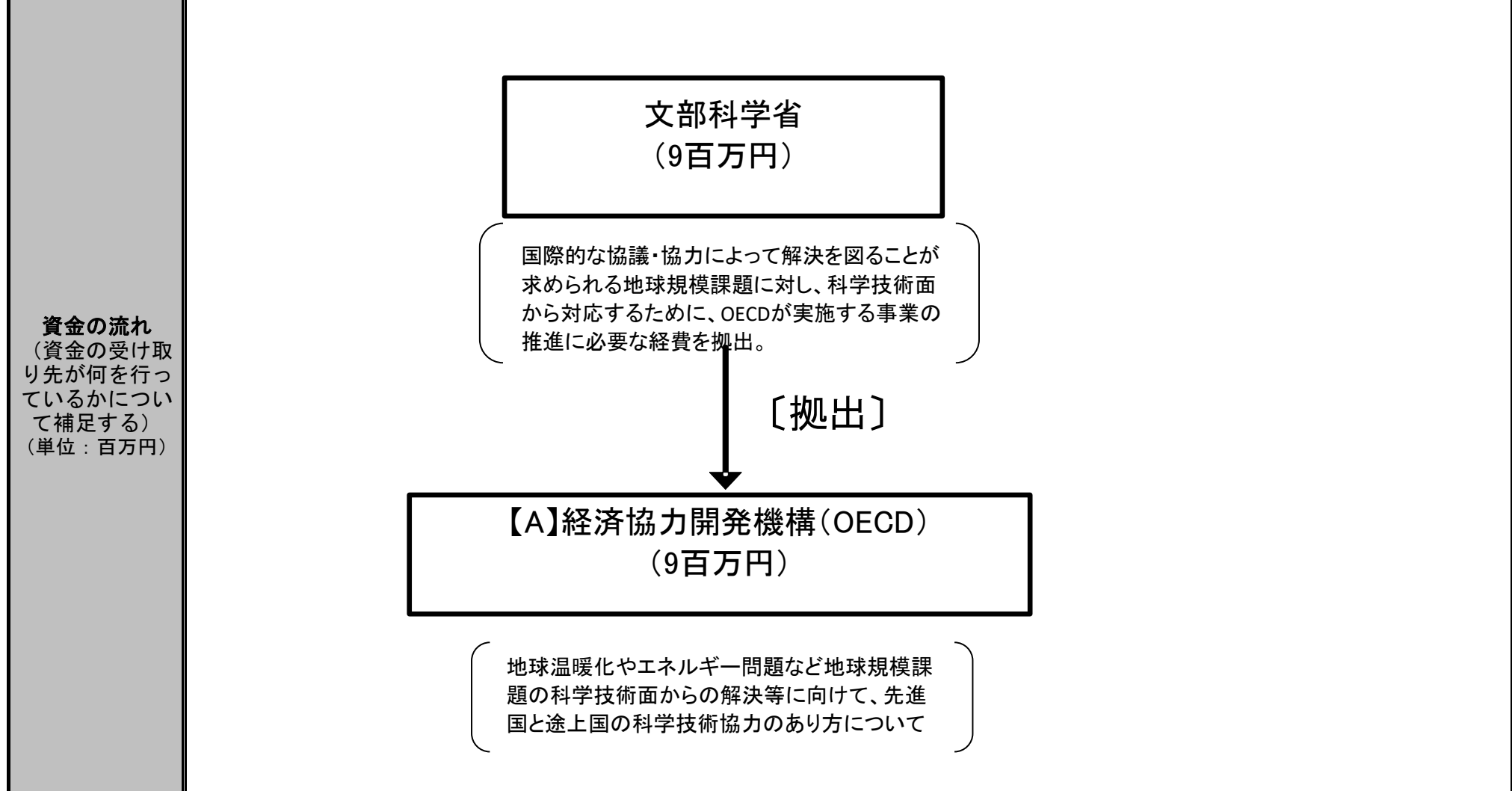
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	OECD/GSFの年2回の定期会合や各プロジェクトの活動に我が国の政府職員及び研究者が出席して活発な意見交換を行っており、成果実績は目標に見合ったものとなっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	科学技術全般について幅広く取り扱う国際的な枠組みは他には少なく、OECD/GSFの場での議論は我が国の施策形成のためにも非常に有用。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	OECD/GSFの年2回の定期会合に我が国の政府職員及び研究者が出席して活発な意見交換を行い、各国の科学技術政策について情報収集を行うとともに、政策立案に活用している。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	36			
平成24年度	217			
平成25年度	213			
平成26年度	211			
平成27年度	199			
平成28年度	181			
平成29年度	188			
平成30年度	188			
令和元年度	文部科学省 - 0180			
令和2年度	文部科学省 0181			
令和3年度	2021 文科 20 0196			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
分担金		OECD/GSFの活動を推進するための経費	9			
計			9	計		0

